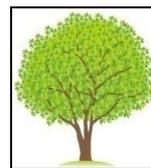


丸太切り・コースター・鍋敷きづくり



活動場所	実習棟(交流ひろば、炊事棟)	自然の家にあるもの	のこぎり、長いす、丸太、金ブラシ
所要時間	1～1.5時間	利用者で用意するもの	(焼く場合は、布、新聞紙、マスク)
人数	100名程度	服装	長袖、長ズボン、軍手、帽子 (焼く場合、綿素材の服、軍手はゴムの滑り止めのないもの)

樹木の匂いや肌触りを実際に確認できるこの活動は、天候や季節を問わず行うことができます。この体験をすることで、間伐で実際に木を切っている人の大変さや達成感に似たものを感じることができます。切れた丸太をお土産として持って帰ることができるので、葛川での宿泊体験のよい記念品となります。

丸太切り



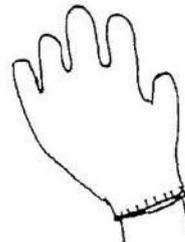
▲ のこぎりを使わない時は、ケースにしまっておきましょう

★ ふしあつさは、1cm ~ 3cmにしましょう。

▲ のこぎりを使っている人の近くには、行きません。

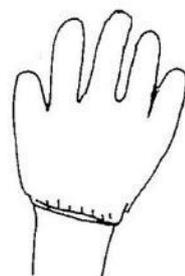
のこぎりを使う時

のこぎりを持たない手だけ軍手をします。



のこぎりを使わない時

両手に軍手をします。



とくに大切なこと

- ① のこぎりは、引くときによく切れます。やってみましょう。
- ② 丸太は、足で押さえると切りやすくなります。また、班の友だちに押さえてもらおうと、さらに切りやすくなります。
- ③ ふしは切りにくいので、ちがう場所を切りましょう。
- ④ 丸太は回さずに、同じ場所から切りましょう。
- ⑤ のこぎりの歯の前に立ったり、すわったりしないようにしましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・スギやヒノキの丸太やのこぎりの特徴について知り、安全で適切な扱い方について身につけることができる。	図画工作	4年「使ってみよう ざいりょうと用具」
・間伐材を加工し、作品にすることで間伐材について理解し、そこから森林について様々な角度から探求しようとする。	総合的な学習	「環境」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・ワッペンサイズ(直径5 cm ほど)を切るのに5分程度、コースターサイズ(直径8 cm ほど)を切るのに10分程度、なべしきサイズ(直径15 cm ほど)を切るには20分程度かかる。
- ・切り取った材木を何に加工するか、何に使用するのかを考えておく。
- ・厚みも重要となる。1 cm～3 cm ぐらいの厚さで切る。

イ) 活動中

- ・晴天の場合は広場でスペースを取り、切るよう指示する。
- ・雨天の場合は実習棟をメインに、炊事棟やテントを使って活動を行う。こちらもスペースを取るよう指示する。
- ・長椅子を使い、班の友だちが押さえると切りやすくなる。

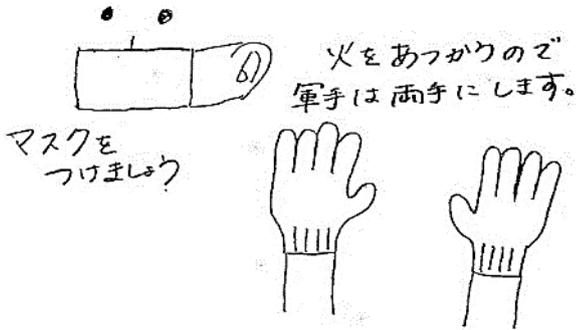
ウ) 活動後

- ・使った道具はもとの場所に戻すよう指導する。
- ・長椅子を戻す際には、指導者の方が置場にて指導する。

3. 安全対策について

--

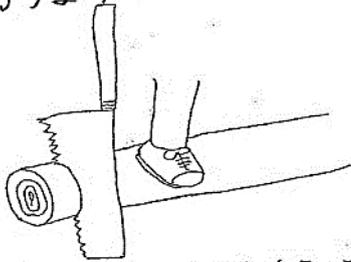
丸太切り～コースター、なべしきづくり～



のこぎりを使う時だけ
持ち方の軍手を
はずします。

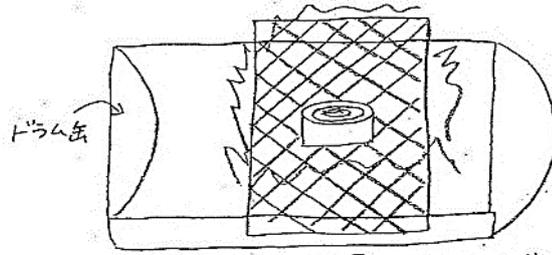


① 丸太を2~3cmのあつさで
切ります。



★ 足でおさえると切りやすいです。

② 切った丸太を
火焼きます。



★ 両面が黒くなるまで

③ 火焼けた丸太にすなをかけて
さします。(60秒待ちます)



▲ かならず"足で"
すなをかけましょう。

④ みがきます。



金ブラシ→ぬの→新聞紙の順に
みがきます。つやが出たら... 完成

とくに大切なこと

- ①のこぎりは引くときによく切れます。やってみましょう。
- ②丸太は足でおさえると切りやすいです。また、班の友だちにおさえてもらうとさらに切りやすくなります。
- ③丸太は回さずに、同じ場所から切りましょう。
- ④みがくときには必ず両手に軍手をし、マスクをつけましょう。
- ⑤みがきすぎるときれいにできません。注意しましょう
- ⑥のこぎりの歯の前に立ったり、すわったりしないようにしましょう。

1. 学習内容

めざすもの（評価）	関連教科	学び（単元）
・丸太やのこぎりの特徴について知り、安全で適切な扱い方について身につけることができる	図画工作	4年「使ってみよう ざいりょうと用具」
・間伐材を加工し、作品にすることで間伐材について理解し、そこから森林について様々な角度から探求しようとする。	総合的な学習	「環境」

2. ポイント

ア) 活動前

- ・コースターサイズ（直径8 cmほど）を切るには5分程度、鍋敷きサイズ（直径15 cmほど）の丸太を切るには10分程度かかる。
- ・軍手、マスク、新聞紙、布が必要。
- ・ビニール、ナイロン素材の服は火の粉で穴が開くので綿素材の服を着用する。
- ・軍手は綿100%のものを用意し、ゴムなど引火しやすいものがないものとする。

イ) 活動中

- ・活動の説明
 1. 丸太を切る→焼いてもらう→砂をかけて冷ます→磨く（金ブラシ→布→新聞紙）
 2. 道具の使い方、磨くポイント（木目に沿って磨く、磨きすぎない等）
- ・焼く作業は指導者、所員が行う（子ども45人程度に対して焼く指導者1人が必要）。
- ・ドラム缶のかまには近づきすぎないように声掛けを行う。
- ・焼きあがったら火ばさみで砂かけ場まで持っていく。砂は必ず足でかけるよう指導する。
- ・軍手、マスクを着用しているか確認する。

ウ) 活動後

- ・使った道具はもとの場所に戻すように指導する（特に金ブラシは、ケースにきれいに直させる）。
- ・できあがった作品は新聞紙で包んで持ち帰る。

3. 安全対策について

--